



なごみ

No.33 2016年秋号

えきもん通信



◆特集

脳血管内科を開設しました
高齢者糖尿病の血糖コントロール目標
(HbA1c値) について

◆地域医療機関の紹介
ふじとう眼科医院



◆院内探訪

内視鏡室

◆サークル紹介

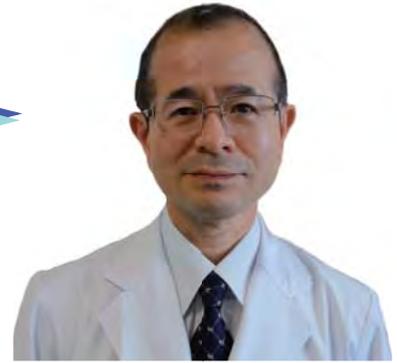
華道部

◆ミニモニトライアスロン参加

◆医療連携室紹介

えきさいかい
一般社団法人日本海員掖済会
門司掖済会病院

脳血管内科を 開設しました!



副院長 藤井 健一郎

本年7月1日に当院へ赴任し(33年振りです)、脳血管内科を開設いたしました藤井健一郎と申します。脳血管内科とは、聞きなれない先生方や医療スタッフの皆さま方も多いと思われるので、少し紹介させていただきます。

● 脳血管内科は、脳卒中をどちらかと言うと障害された脳神経細胞の方から見ることの多かった以前の神経内科的視点ではなく、その原因となる血管の方により焦点をあてて診断や治療にあたらうという科です。すなわち脳血管障害を全身血管病として捉え、神経病学のみならず循環器病学・救急医学・血栓止血学・画像診断学などの多角的な視点から診療を行っていく科です。歴史的には1977年の大阪の国立循環器病センター開設時に九州大学第二内科(現病態機能内科学)出身の山口武典初代部長(現名誉総長)によって開かれた診療科に初めて名づけられたものです。最近では少し名前は異なりますが、神経内科とは別に脳卒中医学教室を開設する大学病院も増えて来ています。

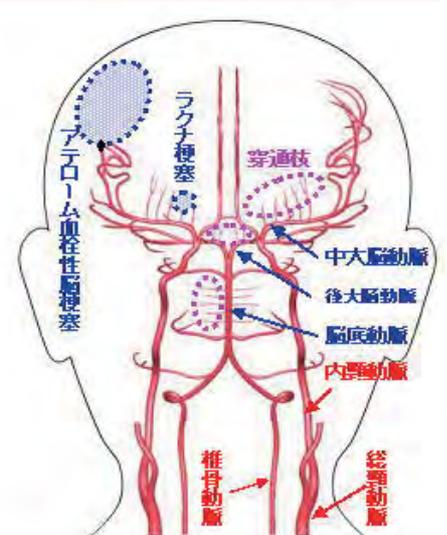
● 診療は脳卒中、特に脳梗塞の内科治療が中心となります。最初は通常の抗血栓薬や脳保護薬の点滴が中心でしたが、2005年に血栓溶解療法(t-PA療法)が認可され(2012年には発症4.5時間以内に適応拡大)、大きく変貌しました。さらにここ数年で、発症後8時間程度(一部は12時間)までなら脳血管内治療(カテーテル治療)の有用性がほぼ確立され、脳卒中急性期医療は急速な進歩を遂げています。まさに冠動脈疾患に対する循環器内科診療に近い状況です。

このような治療を行うには脳血管内科、神経内科、脳神経外科を中心とした多数のスタッフによるチーム医療が必要となります。残念ながら当院スタッフは一人のみで、超急性期から早期急性期の治療は行えません。

● 現時点で当院で行えることは次のようなものです。

- ① 少し時間が経過しており、一般的な保存的治療(抗血栓薬や脳保護薬点滴)やリハビリの対象となる脳梗塞患者。目安としては発症から概ね半日以上(前日や数日前から症状有り)経過した比較的軽症の脳梗塞例となります。
- ② めまいやしびれ、頭痛などが脳の器質的疾患によるものではないかと疑われた場合、脳自体や頭・頸部血管病変の精査を行います。
- ③ 脳卒中の危険因子となる生活習慣病を多数有し、脳梗塞のハイリスクと考えられる患者の脳や頭頸部血管の評価を行います。頸動脈内膜剥離術(CEA)や頸動脈ステント留置術(CAS)の適応となる患者の拾い上げにもつながります。
- ④ 脳や頭頸部血管の評価の結果を踏まえて、脳卒中の危険因子となる高血圧、糖尿病、高脂血症、腎疾患など、院内各科と連携して予防や管理の指導を行います。
- ⑤ 認知症の評価や診断、治療方針の決定も可能です。

医師としては一人のみですが、他の病院スタッフとともに出来る限り地域の住民や医療機関の皆さまのお役に立ちたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



脳血管と脳梗塞(脳血栓症)

高齢者糖尿病の 血糖コントロール 目標(HbA1c値)について



内科部長 井元 博文

2016年5月、日本糖尿病学会と日本老年医学会は「**高齢者糖尿病の血糖コントロール目標(HbA1c値)**」(表1に一部抜粋)を発表しました。2013年に日本糖尿病学会が発表した血糖コントロール目標(熊本宣言2013)をさらに進化させ、高齢者の目標を年齢や健康状態、治療内容などで区切り、個々の患者に合わせて安全かつ効果的に糖尿病の治療を行えるよう工夫されています。

高齢者には心身機能の個人差が大きいなど特有の問題があり、血糖コントロールが困難となります。さらに、高齢の糖尿病患者では「重症低血糖」が起こりやすく、低血糖は認知機能を障害し心筋梗塞や脳卒中などのリスクを高めます。

基本的な考え方は、以下の通りです。

- ① 血糖コントロール目標は**患者の特徴**や**健康状態**:年齢、認知機能、身体機能(基本的ADLや手段的ADL)、併発疾患、重症低血糖のリスク、余命などを考慮して個別に設定すること。
- ② **重症低血糖が危惧される場合は、目標下限値を設定し、より安全な治療を行うこと。**
- ③ 高齢者ではこれらの目標値や目標下限値を参考にしながらも、**患者中心の個別性**を重視した治療を行う観点から、表に示す目標値を下回る設定や上回る設定を柔軟に行うことを可能としたこと。生活習慣の改善を主眼においた教育を基本とし、必要に応じて薬物治療で補い、患者さんに応じたアプローチにより治療方法や目標を個別化するべきという新しい概念、これを、欧米では **patient centered approach (ペーシェント・センタード・アプローチ)** と提唱されており、高齢者においても非常に重要な考え方となります。

北九州市においては65歳以上の高齢者の人口の割合が28.2%と高く、特に門司区に限りますと34.0%と特に高くなっております(住民基本台帳 平成27年3月末時点)。

高齢者の多い我が地域におきまして、個々の患者さんに応じたアプローチを工夫しながら診療を行う毎日です。

患者の特徴・健康状態 ^{注1)}		カテゴリーI	カテゴリーII	カテゴリーIII
		① 認知機能正常 かつ ② ADL自立	① 軽度認知障害～軽度認知症 または ② 手段的ADL低下、基本的ADL自立	① 中等度以上の認知症 または ② 基本的ADL低下 または ③ 多くの併存疾患や機能障害
重症低血糖が危惧される薬剤(インスリン製剤, SU薬, グリニド薬など)の使用	なし ^{注2)}	7.0%未満	7.0%未満	8.0%未満
	あり ^{注3)}	65歳以上75歳未満 7.5%未満(下限6.5%)	75歳以上 8.0%未満(下限7.0%)	8.5%未満(下限7.5%)



「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標(HbA1c値)」より一部抜粋

地域医療 連携紹介

ふじとう がんかいいん ふじとう眼科医院

ふじとう しょうこ

院長 藤東 祥子 先生

〒801-0863

北九州市門司区栄町7-20

電話 (093) 331-7811



門司区栄町で眼科を開業しております藤東です。おかげさまでこの地で開業してもうすぐ20年になります。開業当初は、掖済会眼科には栗原かすみ先生が赴任されていて、年齢が近いこともあり仲良くさせていただきました。手術の必要な患者さんを送り、手術室に私も入れてもらうこともありました。その後も歴代の眼科の先生方には大変お世話になり、また眼科以外の科の先生にも当院の患者さんを診ていただいております。有り難うございます。

現在、当院では一般的な眼科診療、治療に加えて力を入れている2つのことがあります。ひとつは眼鏡、コンタクトレンズの処方です。私自身が小さい頃から近視があり、近視が矯正され見えるようになったときの感動は忘れられません。そのことが眼科を志向したきっかけのひとつでもあります。ヒトの情報は90%が眼からといわれています。近年は仕事でもプライベートでもコンピューター、スマートフォンなど昔とは違うタイプの眼を使う機械を多用することが増えています。全年齢層で「よく見える、疲れにくい」眼鏡、コンタクトレンズの処方をめざしています。

診療時間

	月	火	水	木	金	土
9:30~13:30	○	○	○	○	○	○
15:00~18:00	○	×	○	○	○	14:00 まで

● 休診日 日・祭日





もうひとつは、眼科としてはなじみが薄いことと思われませんが、希望する方に東洋医学的治療を行っていることです。病名のつかない不調に悩まされている患者さんは多くいらっしゃいます。西洋医学では病名がつかないと薬の処方はず、治療が開始できませんが、東洋医学ではその時その時の患者さんの状態で薬の処方を行い治療できます。患者さんの様子を把握するため、長い問診や眼科では普通行わない脈診や腹診を行うので驚かれる方もいらっしゃいますが、東洋医学では大変重要なことであると説明するとみなさん協力していただけます。

今後も掖済会の先生方に助けて頂きながら、「身近な町の目医者」をめざします。よろしく願いいたします。



院内探訪

その3

内視鏡室



内視鏡は医師・看護師・臨床検査技師(日本消化器内視鏡学会認定消化器内視鏡技師)で構成しています。
検査医は、曜日による担当医制となっています。



嘔吐反射などから検査が苦手な皆様に少しでも楽に検査を受けて頂けるよう、細径で高画質な内視鏡を導入しました。
また、経口による検査に比べ、嘔吐反射が少なく楽に検査ができる経鼻内視鏡検査も行っています。



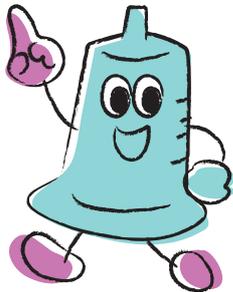
まだまだ分からないことばかりの新人ですが、持ち前のやる気と体力で早く一人前になれるように頑張ります!!



小さな部署ですが、専門性の高い検査だけではなく、ポリープや早期癌に対する切除術、消化器出血時の止血など幅広く対応できるスペシャリストがそろっています。
また、洗浄、消毒にも気を配り、安全な機器を提供できるよう心掛けています。



不安や緊張を取り除き、安心して安全な検査を受けていただけるよう全力でサポートします!





掖済会病院華道部

小原流



小倉先生

小原流は、水盤・剣山をはじめ取り入れた流派です。現在の住宅事情に合わせ、お花を気軽に楽しむことができます。

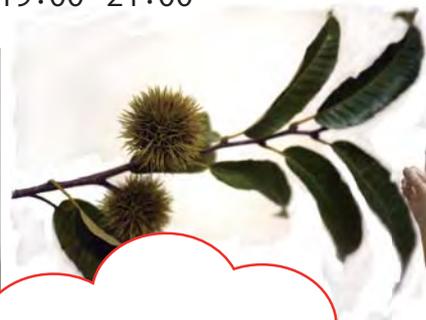
華道部は、小原流北九州市部名誉幹部でいらっしゃる、小倉豊穂先生ご指導の元、毎週木曜日に活動しています。昼休みと終業後、都合のいい時間に参加できます。

小倉先生は、門司かもめホールでもご指導されていますので、興味のある方はいらしてください。

かもめホール
門司区栄町
毎週金曜日 19:00~21:00



プバリアと
クルクマジンジャー



医師・看護師・技師
事務などさまざまな
職種の人が参加して
季節のお花を楽しんで
います！

花器もいろんな
形があるんですね



ミニミニトライアスロンに出場しました

平成28年8月7日(日)、「第31回ミニ・ミニ・トライアスロン大会」が開催されました。この大会は、門司地区の企業を中心としたチーム別対抗戦で、当院も発足当時より何度か参加しており、2011年からは毎年参加しています。

今年は、一人で全種自を行う「鉄人コース」に1名、3人1組の「強人コース」に6名、合計7名が参加しました。競技は、水泳300m→ラン5Km→自転車8~10Kmで、和布刈から太刀浦埠頭までのコースです。例年以上の猛暑の中、選手はゴールをめざし、懸命に駆け抜けました。レース後、差し入れのスイカにかぶりつく瞬間は格別でした。恒例のバナナのたたき売りにも参加し、選手、応援団みんなで楽しみました。

来年以降も継続して参加し、院内および地域のみなさまとの交流を深めていきたいと思っています。



●● こんにちは！医療連携室です ●●

平成28年4月1日より、前任野口の退職に伴い、専任事務鶴木が加わり、新たな医療連携室を作り上げるべく、4人で孤軍奮闘しております。

整形外科、泌尿器科、眼科と非常勤体制の診療科が増えましたが、その中でもいかに地域に根差した病院となれるかを目指し、開業医の先生方のご紹介をお受けしていくか、日々考えています。地域包括ケア病棟も立ち上がり、連携室もあれやこれやと忙しく働かせていただいています。

地域の方々のご期待に沿えるよう、今後も精進してまいりますので、何かございましたらお気軽にご相談ください。

これからの新しい連携室を今後ともよろしくお願いたします。



社会福祉士 八木 睦未



浅井です。毎日バタバタと仕事をしています。机の上は誰よりも汚いです。今年度後半は相談業務に加え片付けを頑張りたいと思います。宜しくお願いしますー!!



社会福祉士 浅井 愛子

「誰に、どこに相談すれば良いかわからない・・・」生活に関する相談はMSWが対応させていただきます。お気軽にお声掛け下さい。



社会福祉士 橋本 拓

どうぞお気軽にお寄りください!(^o^)

「掖済会病院連携室でございます」。よく聞かれているフレーズだと思います。わたくし26年目の新人、鶴木が対応させて頂いております。まだ慣れなくて多々ご迷惑をおかけする事もあるかと思いますが、若い3人の力も借り、頑張っておりますので宜しくお願い致します。



専任事務 鶴木 利江



Japan Seafarers Relief Association Moji Ekisaikai Hospital



Japan Seafarers Relief Association Moji Ekisaikai Hospital



今月の表紙

秋の鱗雲に映える阿蘇神社の桜門（重要文化財）は、昨秋に大観峰から阿蘇の噴火を確認後に訪れました。厳かながらも、何かしらの心地よさに包まれたパワースポットを堪能し、これからは季節ごとの情景を撮影したいとの思いにかられました。平成28年4月16日未明の熊本地震によりこの思いは暫く叶わなくなりましたが、熊本県の復興が一日も早く進み、以前の姿に戻った彼の地を訪れる事が出来る日を待ち望んでいます。

編集後記

今年の夏は連日の猛暑に加え、リオ五輪での日本選手団の活躍により、感動と興奮と寝不足で一層暑く感じました。この感動を今度は日本で感じられるなんて、4年後の東京五輪が楽しみです。そして五輪の終わりと共にやってきたのが秋ですね。

秋になると今年もあと少しで終わっちゃうな〜と少し悲しい気分になってしまいます。あと2か月、やり残しのないように新年を迎えたいものです。私は、今年こそ年末の大掃除を今年中に終わらせられるように頑張ります!!

発行



一般社団法人 日本海員掖済会
門司掖済会病院

〒801-8550
北九州市門司区清滝1丁目3番1号

代表 電話 093-321-0984
FAX 093-331-7085

<http://www.ekisaikai-moji.jp>

医療連携室

電話 093-321-1031
FAX 093-321-1032

